

岩北ユネスコスクールだより



よりよい未来を創っていくために、学び考え行動する子

2014. 6. 18

富士市立岩松北小学校

ユネスコスクール2年目を迎えて

昨年9月20日、日本ユネスコ協会連盟の静岡県ユネスコ連絡協議会長の小島逞壮様から、「ユネスコスクールプレート」を贈呈していただきました。これまでの本校の「けやき」の学習の実践が、ユネスコスクールとしての承認につながりました。けやきの学習（生活科・総合的な学習の時間）では、地域の中で育つ子どもたちのさまざまな気づきから、自分たちで探っていききたいテーマが生まれています。テーマは子ども達の身近にあるものです。どうして木は大きくなるのか調べたい、外国語で他の国の人と話してみたい、岩松地区の魅力ってまだ他に何かあるのかな…そんな子ども達の心の動きを大切にしていきたいです。岩北のESD（持続発展教育）の学びは、けやき学習を中心に進められていきますが、他教科や特別活動などとつなげることで、学びに広がりや深まり、ダイナミックさが加わります。今回の岩北ユネスコスクールだよりでは、理科や図工の授業をESDという視点で紹介いたします。

★理科 「めだかを通して命に向き合う」(5年生)

5年生ではメダカの学習をします。おすとめすの体のつくりは背びれと尻びれにあるんだと子ども達は驚いていました。「飼ってみたい。」という子ども達の依頼にこたえて各班に2ひきのめだかをプレゼントしました。まずはおすとめすを見分けて、次に砂を入れよう、卵をたくさん産むようにホテイアオイを入れよう…そうだ、名前を決めよう！！と張り切っていた矢先。全滅してしまいました。どうして死んでしまったのだろうと子ども達は疑問を感じています。そこで、これから調べてみることにしました。また、別の場所で飼っていためだかは100個近く卵を産みました。各班に配り世話をしています。今度もそ長生きしてほしいと子ども達は大切に育てています。めだかの生死に直面した子ども達は、命の大切さをより感じたようです。

★図工 「地域の美との出会い」(6年生)

ポスターの着色で、ムラのないように、べた塗りに取り組んだ6年生に、透明水彩絵の具での重色体験を計画しました。題材は、みずみずしい新緑に包まれた実相寺です。地域の美に改めて出会い、自分のお気に入りの場所を見つけ描いていきました。大きな屋根の曲線美に惹かれる子、どこまでも続く階段と両脇の緑に魅力を感じてる子、木組みの不思議さ、面白さに心を動かされる子…その子の中に主題（描きたいモノ）が生まれ、夢中になって画面に向かいまわりました。鳥のさえずり、お経の声、線香の匂い、空を覆う葉からこぼれる光など、その場所でのしか味わえない世界を体全体で感じながら自分と対話しながら描いている姿は、小さな芸術家のような感じでした。このような素敵な場所がある地域の中で生活している自分を感じ、よりよい岩松地区を自分も創っていききたいという気持ちが少しでも高まるといいと思います。



【感想より】

- 古いお寺をまじまじと観て、建てた人の苦労や木組みの技のすごさを感じました。地域に実相寺があって嬉しいです。この建物を未来にも残したいと思いました。
- よく遊びに行く場所だけど、ゴミが落ちていないことに気づきました。掃除をしている人のおかげです。ゴミは家に持って帰ろうと思いました。
- ウォーキングをしている人がいました。緑が豊かで、地域の人にとって和む場所になっていることが、嬉しかったです。また写生に行きたいです。

お子さんの学級ではどんな学習が進められているのでしょうか。「友達をたくさんつくりたい！」「あさがおの秘密を見つけるぞ！」「学校探検に出発だ！」そんなテーマが聞こえています。是非、ご家庭で話題にしてください。また、その内容なら協力できるというようなことがありましたら、是非、力を貸してください。地域全体で「よりよい未来を創っていくために、学び考え行動する岩北っ子」を育てていきたいと思います。今後も、岩北ユネスコスクールだよりで、ESDの取り組みを紹介していきます。